

1 - 1 日本とその周辺の地震活動 (2006 年 11 月～2007 年 4 月) Seismic Activity in and around Japan (November 2006 - April 2007)

気象庁 地震予知情報課
Earthquake Prediction Information Division, JMA

今期間、日本とその周辺で M5.0 以上の地震は 163 回、M6.0 以上の地震は 17 回発生した。このうち最大は、1 月 13 日に千島列島東方で発生した M8.2 の地震であった。

2006 年 11 月～2007 年 4 月の M5.0 以上の震央分布を第 1 図 (a) 及び (b) に示す。主な地震活動は以下のとおりである。

- (1) 北海道地方とその周辺の地震活動 (本巻「北海道地方とその周辺の地震活動」の頁参照)
2007 年 2 月 17 日 09 時 02 分に十勝沖の深さ 40km で M6.2 (最大震度 4) の地震が発生した。発震機構 (CMT 解) は西北西－東南東方向に圧力軸を持つ型で、太平洋プレートと陸のプレートの境界付近で発生した地震と考えられる。この地震は「平成 15 年 (2003 年) 十勝沖地震」(M8.0, 最大震度 6 弱) の余震域内で発生した。同余震域内では、2007 年に入ってから今回の地震 (2 月 17 日, M6.2), 3 月 18 日に M5.6 (最大震度 3), 4 月 27 日に M5.2 (最大震度 4) の地震など M5.0 を超える地震が発生している。また、1923 年 8 月以降の付近の地震活動をみると、10 年に 1 回程度 M6.5 以上の地震が発生している。
- (2) 東北地方とその周辺の地震活動 (本巻「東北地方とその周辺の地震活動」の頁参照)
今期間、東北地方とその周辺で M5.0 以上の地震は発生しなかった。
- (3) 関東・中部地方とその周辺の地震活動 (本巻「関東・中部地方とその周辺の地震活動」の頁参照)
2007 年 3 月 25 日 09 時 41 分に能登半島沖の深さ 11km で M6.9 (最大震度 6 強) の地震 [平成 19 年 (2007 年) 能登半島地震] が発生した。発震機構は西北西－東南東方向に圧力軸を持つ型であった。地震活動は本震－余震型で推移し、余震は北東－南西方向に伸びた領域で発生している。最大の余震として、余震域の北東側で 3 月 25 日 18 時 11 分に M5.3 の地震 (最大震度 5 弱)、南西側で 26 日 07 時 16 分に M5.3 の地震 (最大震度 4) が発生した [平成 19 年 5 月 31 日現在]。4 月以降、余震域がやや南西側に広がったが、余震活動は総じて減衰している。1923 年 8 月以降の付近の地震活動をみると、1993 年 2 月 7 日に M6.6 (最大震度 5)、2000 年 6 月 7 日に M6.2 (最大震度 5 弱) の地震が発生するなど、M6.0 以上の地震が 4 回観測されているが、今回の地震が最大規模である。(本巻「平成 19 年 (2007 年) 能登半島地震について」の頁参照)
2007 年 4 月 15 日 12 時 19 分に三重県中部の深さ 16km で M5.4 (最大震度 5 強) の地震が発生した。発震機構は北東－南西方向に圧力軸を持つ逆断層型であった。本震の約 2 分前には、M3.2 (最大震度 2) の前震が観測された。余震活動は次第に減衰しており、5 月 31 日現在の最大余震は 4 月 15 日 18 時 34 分に発生した M4.6 (最大震度 4) の地震である。1923 年 8 月以降の付近の地震活動を見ると、1989 年 2 月 19 日に M5.4 (最大震度 3) の地震 (深

さ 45km) が発生しているが、陸域の浅い地震では今回の地震が最大規模である。(本巻「2007年4月15日三重県中部の地震 (M5.4) について」の頁参照)

(4) 近畿・中国・四国地方とその周辺の地震活動 (本巻「近畿・中国・四国地方とその周辺の地震活動」の頁参照)

2007年4月26日09時02分に愛媛県東予で深さ39km, M5.3 (最大震度4) の地震が発生した。発震機構は東西方向に張力軸を持つ横ずれ断層型であり、フィリピン海プレート内部で発生した地震である。最近10年程度の周辺の活動を見ると、ここ数年はやや活発な状況で推移している。

(5) 九州地方とその周辺の地震活動 (本巻「九州地方とその周辺の地震活動」の頁参照)

2006年11月18日03時03分に奄美大島近海でM6.0 (最大震度4) の地震が発生した。発震機構 (CMT 解) は北西-南東方向に圧力軸を持つ逆断層型であった。余震活動は地震発生から数日間やや活発であったが、11月末には低調になった。1923年8月以降の活動を見ると、この付近ではM6.0以上の地震が時々発生している。なお、今回の震源域の南方では、1995年10月18日にM6.9, 翌19日にM6.7の地震 (ともに津波あり) が発生している。

(6) 沖縄地方とその周辺の地震活動 (本巻「沖縄地方とその周辺の地震活動」の頁参照)

2006年12月26日21時26分に台湾付近でM6.9 (USGS ではMs7.2) の地震 (国内では最大震度1) が発生した。この地震の発震機構 (Global CMT Project による) は東北東-西南西方向に張力軸を持つ正断層型であり、ユーラシアプレートの内部で発生した地震と考えられる。また、この地震の8分後の21時34分にはM7.2 (USGS ではMs7.1) の地震 (国内では最大震度1) の地震が発生した。

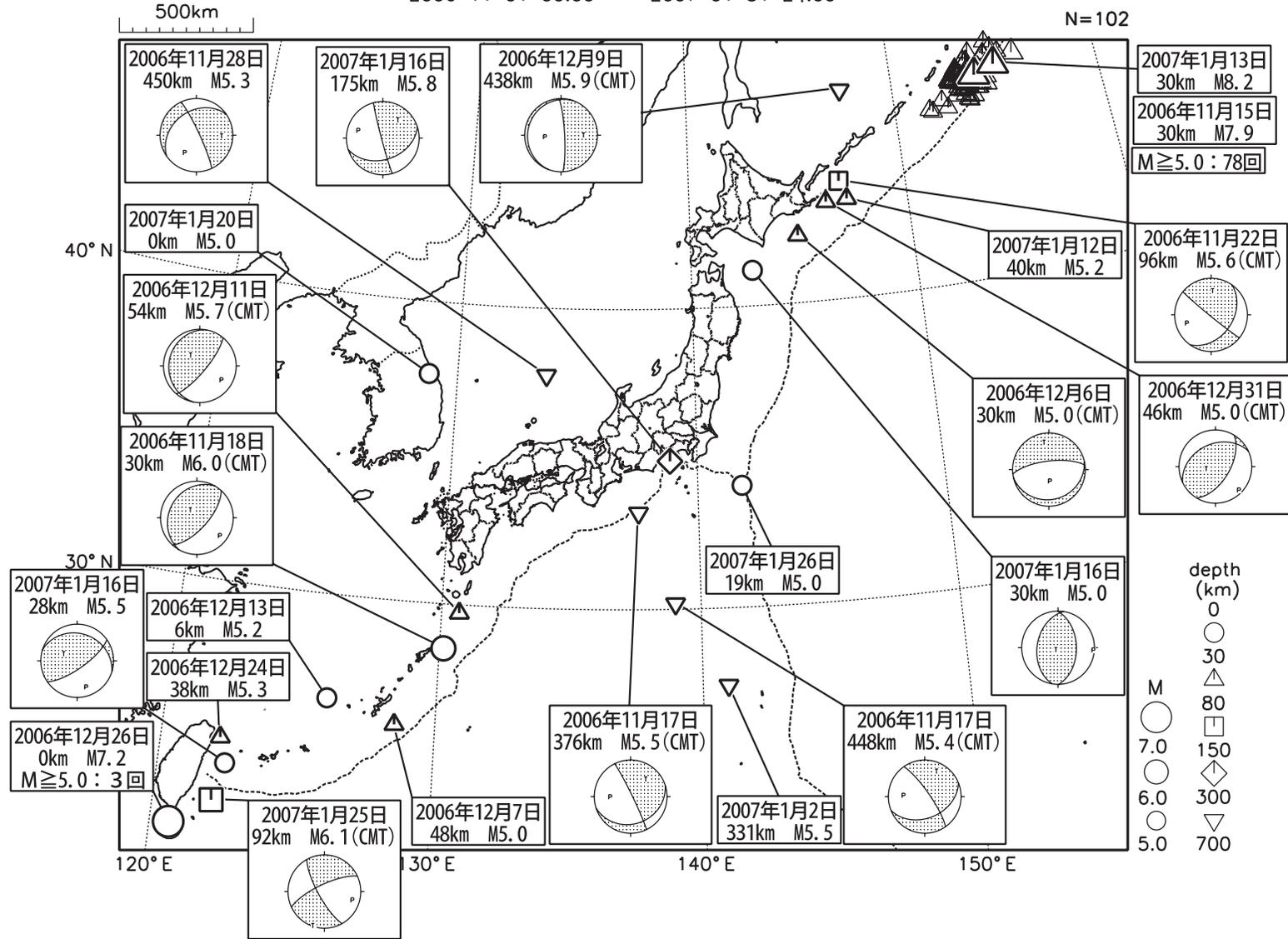
2007年4月20日10時45分に宮古島北西沖でM6.7 (最大震度3) の地震が発生した。また同日09時26分, 11時23分にもM6.3, M6.1の地震が発生するなど、活発な地震活動が見られたが、4月末までにはほぼ収まった。最大の地震 (M6.7) の発震機構 (CMT 解) は北北西-南南東方向に張力軸を持つ正断層型で、この付近の応力場と調和的である。この地震により、気象庁は10時51分に宮古島・八重山地方に津波注意報を発表したが、この地震に伴う津波は観測されなかった。この周辺では、M6.0以上の地震が時々発生しており、1923年8月以降の地震活動をみると、1938年6月10日にM7.2の地震が発生し、宮古島で1.5m程度の津波を観測している。

(7) その他の地震活動

2006年11月15日20時14分に千島列島東方でM7.9 (最大震度2, USGS ではMs7.8), 2007年1月13日13時23分にM8.2 (最大震度3, USGS ではMs8.2) の地震が発生した。発震機構 (Global CMT Project による) は11月の地震が北西-南東方向に圧力軸を持つ逆断層型, 1月の地震が北北西-南南東方向に張力軸を持つ正断層型であった。ΔCFFの解析等からは、11月に海溝の北西側で発生したプレート間地震に誘発される形で1月に南東側でプレート内地震が発生したと考えられる。(本巻「千島列島東方の地震について (2006年11月15日Mj7.9および2007年1月13日Mj8.2)」の頁参照)

日本とその周辺の地震活動(2006年11月~2007年1月、 $M \geq 5.0$)

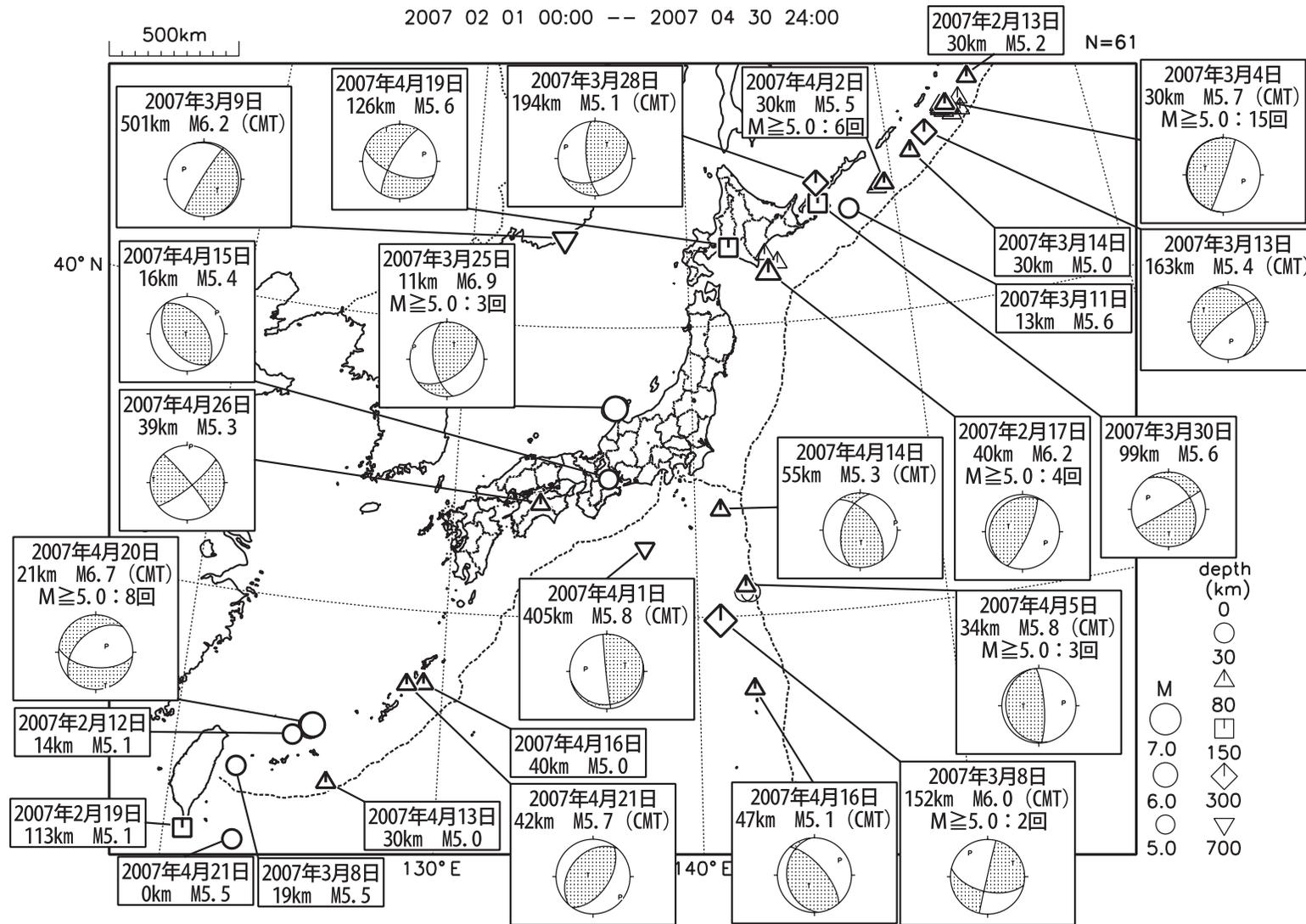
2006 11 01 00:00 -- 2007 01 31 24:00



第1図 (a) 日本とその周辺の地震活動 (2006年11月~2007年1月, $M \geq 5.0$, 深さ ≤ 700 km)

Fig.1 (a) Seismic activity in and around Japan (November 2006 - January 2007, $M \geq 5.0$, depth ≤ 700 km).

日本とその周辺の地震活動(2007年2月~4月、 $M \geq 5.0$)



第1図 (b) つづき (2007年2月~4月, $M \geq 5.0$, 深さ ≤ 700 km)

Fig.1 (b) Continued (February - April 2007, $M \geq 5.0$, depth ≤ 700 km).